

Q<sup>27</sup>

新生児の保育器の消毒ですが、ホルマリン消毒をしていいですか？ その他どのような消毒がありますか？

## A

伝染病予防法では、ホルマリン(ホルムアルデヒド)燻蒸が推奨されていました。しかし、ホルマリンガスは粘膜刺激性があるのみならず、マウスの鼻粘膜に発癌性を示すことが報告されています<sup>1-5)</sup>。したがって、消毒薬としてのホルマリンの使用は、毒性の観点から差し控えるべきでしょう。保育器のホルマリン燻蒸や、いわゆるホルマリンボックスの使用は中止する必要があります。

保育器の消毒は、できる限り分解・洗浄後に、0.2%両性界面活性剤(テゴ-51<sup>®</sup>、ハイジール<sup>®</sup>など)や0.2%塩化ベンザルコニウム(オスバン<sup>®</sup>、ザルコニン<sup>®</sup>など)での清拭(図1)や、0.1%両性界面活性剤や0.1%塩化ベンザルコニウムへの浸漬により行ってください。ただし、ウイルス汚染が問題となる場合には、アルコール清拭や0.01~0.02%(100~200ppm)次亜塩素酸ナトリウム(ミルトン<sup>®</sup>、ピューラックス<sup>®</sup>など)での清拭や浸漬を行います。ただし、フード箇所アルコールを使用してはなりません(材質劣化が生じるため)。



図 保育器の消毒  
0.1%両性界面活性剤などでの清拭で行う

## 文献

- 1) Coldiron VR, et al. : Occupational exposure to formaldehyde in a medical center autopsy service. J Occup Med 1983; 25: 544-548
- 2) Moore RM, et al. : Occupational hazards to health care workers: diverse, ill-defined, and not fully appreciated. Am J Infect Control 1991; 18: 316-327
- 3) Nelson N, et al. : Contribution of formaldehyde to respiratory cancer. Environ Health Perspect 1986; 70: 23-25
- 4) Hendrick DJ, et al. : Occupational formalin asthma. Br J Ind Med 1977; 34: 11-18
- 5) 徳永尚登, ほか: 医学生に発症したホルマリン喘息症例の検討. 日本医事新報 1990; 345: 29-31

(尾家重治)